

(仮称) 野々市市新市立図書館・市民学習センター基本構想

(概要版)

新図書館・市民学習センターの基本理念

市民の学びと文化・芸術・創造、
情報発信、市民協働におけるシンボル
～「学びの杜ゾーン」の整備～

理念を実現するための機能

図書館

- 足を運びたくなる親しみのある図書館
- みんなが集い交流できる図書館
- まちを知り、まちを学び、まちをつくる
- すべての利用者にやさしい図書館
- 暮らしに役立つ便利
- ICT技術を活用した先進的な取り組み

市民学習センター

- 市民の発表の場
- 併設する公園の緑に配慮
- ギャラリーなどの展示機能
- 市民交流と新たな学びの創造
- 文化会館フォルテとの連携

事業の考え方

基本構想策定の経緯

- ◇野々市中央地区土地利用構想
・市全体の発展と活性化を図るための教育文化施設の機能拡充
・にぎわい回帰のための拠点整備
- ◇検討委員会にて市民の意見及び提案を反映

野々市市の課題

- ◇現図書館の老朽化、施設の広さや蔵書数
- ◇情報発信、資料収集への対応
- ◇文化芸術活動を支援する施設の不足と、それらをまちづくり活動に発展させる施設機能の整備の必要性

今後の方向性

- ◇本市生涯学習施設の拠点と位置づける
- ◇既存施設との役割・目的の明確化
- ◇「にぎわい交流ゾーン」の整備方針との連動

施設の想定規模

- 図書館 延べ床面積:3,100㎡、蔵書数:25万冊
- 市民学習センター 延べ床面積:2,000㎡
- 共用・設備スペース 延べ床面積:600～700㎡

立地について

- ◇野々市中央地区全体を旧北国街道を中心とした面で捉え、県立養護学校跡地を活用
- ◇近隣の文化会館フォルテとの一体的な活用

サービス

- ①市民が主体的に参加し、市民とともに創り上げる施設にするための、市民ニーズの集約と専門家によるサポートの構築
- ②将来の利用者である子どもたちへ心を豊かにする本との出会いの場を提供
- ③一般利用者のニーズに合った資料の収集と効果的な資料の提供
- ④市民の創作活動や市民団体の公益事業支援と市民ニーズの高い学習事業展開
- ⑤ボランティアの積極的な育成
- ⑥的確なサービス提供のための職員育成

施設整備

- ①ユニバーサルデザインによる整備
- ②ボランティアなどの活動支援のための施設整備
- ③県立養護学校跡地の樹木を活用した緑地空間やカフェの設置による市民憩いの場の整備
- ④「にぎわい交流ゾーン」と親和性があり、市のシンボルとなる施設計画

管理運営

- ①市民の参加・参画
- ②市民ニーズを考慮した開館日・開館時間の検討
- ③ICT機能を有するシステム導入による、事務効率化とスピード感あるサービス提供
- ④専門職員配置による質の高いサービス提供
- ⑤効果的な管理運営のための、直営・外部委託等の手法検討